

ひかりのこ

7月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2021年6月23日

月主題：心ゆくまで

「一つ一つ」

6月7日から、学年ごとの分散登園、6月14日からは全園児の午前保育が、6月21日からは通常の保育へと戻すこととしました。札幌市の感染状況は、減少していますが、終息にはまだまだ時間がかかりそうです。

しかし園としては、子どもたちの成長に、これ以上の制限をかけた保育は良くないだろうと判断いたしました。朝登園し、縦割りの様々なお友達と自分の好きな遊びを見つけてゆったり遊ぶこと、みんなで心静かに神様にお祈りをする、おいしいご飯をお友達と一緒に食べる、お外でたっぷり遊ぶこと、先生の優しい声の読み聞かせで、大好きな絵本の世界にたっぷり浸ること。環境によって大きく伸びる時期の子どもたちに対して、ミカエル幼稚園がずっと大切にしてきたことを、もう戻していきたいと考えています。

各保育室には、パナソニックのジアイーノが入っています。コロナウイルスの検証はまだされていませんが、インフルエンザ、ノロウイルスの空間除菌の効果は立証されています。各ご家庭にご協力をお願いし、不織布マスクをしていただくことにしました。

子どもたちは、登園の際、バスで、玄関で、幼稚園内で毎朝生成する次亜塩素酸水（強酸塩）で手を除菌し、保育室内でも手洗い、次亜塩素酸水による除菌、うがいをしています。この強酸塩生成装置は、ホシザキ製で、厨房などで手洗いや、部屋の消毒、野菜の洗浄などに使えるものです。人体にも安全で、手指にも優しい消毒ができます。

食事の際の飛沫感染が一番の不安でしたが、各テーブルにパーティションを設置することとしました。預かり保育のお子さんもう使っていますが、この1か月、みんな安全に過ごすことができました。大人からの感染が不安でありますので、先生たちは子どもと一緒に食事をしていないか、テーブルを離して食事をするようにします。

職員の健康観察や、手指の消毒も細やかに行ってまいります。除菌のお掃除も登園のたびに丁寧に行っていきます。一つ、一つ丁寧に。よく考えて。子どもたちの健康を守りながら、心と体を成長させる取り組みを今までも、これからもミカエルは行っていきます。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「牧師って？」

この幼稚園で初めてキリスト教に触れ、いろんな疑問をお持ちの方々もおられると思います。そこで今回は豆知識として、まず「牧師」についてお話しします。大きく分けてプロテスタント教会では、教役者のことを牧師といい、カトリック教会や東方正教会（函館のハリストス正教会など）は神父といいます。そしてややこしいのは、主教、司祭という職名もあります。私たちの聖公会（イギリス国教会系）やカトリック教会では、古い職制を保持していて、聖職者の中に3つの職務があり、主教（司教）、司祭、執事（助祭）という違う役割を担っています（カトリックの場合は原則独身）。これは一種の教会の文化と規律です。

さて、牧師や神父にも現金収入があります。原則的には自分が働く教会の信者さんが牧師の生活を支えます。しかし、教会には大小があるので、教会によっては牧師を養えない所もあるため、聖公会などでは全教会から献金を一箇所に集め、それを牧師全員に分配するシステムで、会社員と同じ銀行振込です。問題は、では牧師は普段何をしているのかです。これは多種多様ですが、共通することは、まず祈ること。祈らない牧師、神父はいません。そして一番大切なのは日曜日の礼拝を守ること。あとはその人がいる場所で、牧師、神父の使命感や能力に応じて多種多様な仕事があります。昼間からぶらぶらして、ヒマそうに見えることがあるかもしれませんが、みんな結構忙しいものです。高齢化でお葬式が増えているのも、多分共通した仕事に違いありません。悩む人の声を聞くのも大切な仕事です。そんな時は遠慮なく声をかけてください。

チャプレン 司祭 下澤 昌